

2005年12月21日

小泉政権は 全日本建設運輸連帯労働組合に対する 弾圧を直ちに止めろ

民主労総・全国建設産業労働組合連盟

※原文はハングル。ここでは日本語翻訳版を掲載しています。

建設産業連盟(委員長 ナムグン・ヒョン)は、全日本建設運輸連帯労働組合(以下全日建労組)に対する小泉政権の政治弾圧を怒りを込めて糾弾する。昨年 12月8日、日本の大阪で門真市議会議員であり全日建連帯労組近畿地方本部委員長である戸田ひさよし氏を、市議会の定例議会が行われている最中に逮捕するという驚くべき事態が発生した。これに続いて12月13日には、全日建連帯労組関西地区生コン支部の武建一委員長を再々逮捕する事態が発生した。

全日建労組は日本の建設労働者の闘いを代表してきた組織であり、中小企業と労働者が団結し、巨大建設業者に対して対等な取引条件を要求したという理由で、労組幹部が拘束されるなどの弾圧を受けてきた。また、12月8日拘束された戸田氏は、全日建労組の幹部であり、労働者の権益を代表する活動を展開してきただけでなく、『反戦・福祉議員ネット』の役員としてイラク戦争に反対し、毎月アメリカ領事館前で集会を行うなど、日本の進歩的活動を展開してきた代表的な議員である。

韓国でも政権と資本は建設労働組合に対する弾圧を盛んに行っている。2003年には現場の団体協約締結に対して公安弾圧を仕掛け、2005年には蔚山建設プラント労組の正当なストライキ闘争に対して47名を拘束するという弾圧を行った。また、建設運送労組の賃金協約闘争を始めとする闘いに、損害賠償・仮差押えを使って労働組合を弾圧している。しかし、国のいかに問わず、政権と資本は燎原に広がる炎のような建設労働者の闘いを妨げることはいかなる場合にもできない。政権と資本の弾圧が強まれば強まるほど、建設労働者の闘いはより一層拡大し、熾烈に展開されている。

建設産業連盟は小泉政権に対し、労働者の権益と反戦運動などの闘いの先頭に立ってきた戸田氏と全日建連帯労組に対する弾圧行為を直ちに止め、連行者を即刻釈放することを強く要求するものである。併せて建設産業連盟は、未曾有の政治弾圧に対しても強固に闘っている全日建労組の同志達に、熱い国際連帯の同志的愛情を表し、全日建労組の闘いを援護する強力な国際連帯闘争を展開していくことを明らかにするものである。

以 上